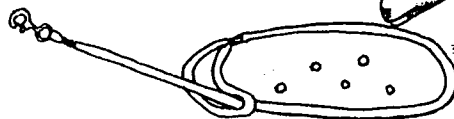


アークは、ここ数年間で1,000頭以上の動物を救助しました。助けた動物をここに持ち込んで来る人もいれば、私達が道端やハイウェイや川岸で見つける場合もあります。また、アークに電話がかかってきて、動物が怖がったり攻撃的で、自分たちには助けられないから救援に来て欲しいと要請されることもあります。救助の方法は、そのときときによって毎回事情も違ふし、動物も異なるので一概には言えません。私自身も、今までにドラマチックな救出劇を演じたことが何度かあります。例えば、川の対岸で身動きがとれなくなった体重20キロの犬を、向こう側まで泳いで行って助け出したこともあれば、また3メートルも高さがある金網のフェンスをよじ登り、急斜面の土手を下りて貯水池の端まで辿り着かなければならなかったこともあります。池に突き出た狭い岩場に犬がとり残されていたからです。

チョコビ先生の



まずリードに対する警戒心を解くため、時間をかけて慣れさせます。



(図1)

他の人たちも、それに動物自身も危険な目に合わずに救出することが出来るか、慎重に考える必要があります。素早く行動しなければいけない場合もあるし、反対にじっとして、動くときも時間をかけてゆっくりと動作を行わなければならないこともあります。

車を持っている方なら、次のような道具を積み込んでおくと、万一の場合に役立つでしょう。リードを1,2本(犬を捕える輪綱にもなる)、乾燥肉や干し魚などの餌、中型の折りたたみ式ワイヤー・ケージ(バリケネルは不向き)、数枚の毛布とタオル、皮手袋、ハサミ又はカッ

重傷を負っていない限り、捕獲するのは不可能に近いと言えます。野生犬の救出には、咬まれる危険が大いにあります。

2.逃げ出した犬は、多少怖がりではありますが、大抵は人間に心を許しています。首輪と引き綱を付けている場合でも、後に述べる方法を取るのが賢明です。首輪は緩くなっていたり、擦り切れていて、犬が引っ張ると、外れたり、壊れたりすること多いからです。

3.捨て犬にも2種類あります。最近捨てられた犬と、ずっと前に捨てられた犬の場合です。経験者には大体わかりませんが、捨てられたばかりの犬は、飼い主が来て

くれないかと通る車を1台ずつ見たり、あるいは、どっちへ行けばよいのか

Animal Rescue 動物救助—その方法と問題点を考える—

このどちらの場合も、私は犬を連れてまた同じように戻って来なければなりません。

動物を救出するには、ある程度の技術と、大変な忍耐力が必要です。緊急時の動物は、大抵ショック状態に陥っています。すなわち、怯えていたり、混乱していたり、攻撃的になったりしているのです。怪我をしていることもあるし、痛がっているかもしれません。私達は、行動を開始する前に、どうすれば自分たちも

ターナ이프、ペンチ、先端に鉤をつけた長さ50センチ位のスチール製の棒、犬にはめる口輪(サイズ2と3がたいいの犬に合う)、それに、救急箱などです。

車を走らせているときに、たまたま動物を目撃することがあるでしょう。小さな道沿いのこともあれば、交通量の多い主要道路や、さらにはハイウェイの場合もあります。事故を避けるためにハザード・ライトを点滅させながら、注意して車を停止させることが大切です。時には、往來する他の車を止める必要があるかもしれません。車に轢かれる危険のある道路から動物をそらせることが肝心です。動物が、近づいて来るあなたに怯えて、交通の激しい道に舞い戻ってしまうと危険です。好きなように歩かせて、その後について行って下さい。うまくゆけば、車道から外れて野原か小道に入るか、どこかの庭に迷い込むでしょう。ゆっくりと後をつけて行きます。走って追いかけてはいけません。動物は人間よりもずっと足が速いのですから。

犬の場合

野犬は、3つに分類されます：

- 1.野生の犬
- 2.飼い主から逃げ出した犬(首輪に引き綱か鎖がついていることが多い)
- 3.捨て犬

1.野生の犬は、人間を非常に警戒しますから、何らかの原因で身動き出来ないか、

わからずパニックに陥って道を走っています。体の状態は大抵良好です。捨てられて日がたっている犬の場合は、痩せ衰え、体中ダニに被われていたり、怪我をしていることもよくあります。野生の犬とは違って、捨て犬が生きていくのはとても難しいのです。

犬の捕獲

犬がいる所にゆっくりと近づいて行って、身をかかめて下さい。急な動きをしたり、犬を捕まえようとしてはいけません。咬まれることは絶対に避けるべきです。リードを地面に輪をかくように置き、輪の中に餌の薄片を1つずつ入れて犬に食べさせます。(図1)犬は餌を取りに来ても、すぐに離れてしまうかもしれません。薄片を根気強くやり続けるうちに、あなたの手から食べるようになるでしょう。リードを投げ縄のようにして持ち、輪の中で犬に餌をやして下さい。(図2)頭が輪をくぐった時にリードをきつく引いて、犬がもがいてもしっかりと握って放さないことです。この段階で、他の人に手伝ってもらおうといいでしょう。誰かに折りたたみ式のワイヤー・ケージを持って来てもらいます。あなたがリードを柵に通して、犬をケージの中に引っ張り込む間に、他の人が犬の後足を押し込んで扉を閉めます。(図3)扉を閉めたまま、棒につけたワイヤー・フックで犬の首からリードを外します。ケージの中でリードが絡まって、首を締めるといけないからです。それから車に積み込みます。逃



炎天下の車の中に置き去りにされた犬のレスキュー